

森ってスゴイ - 酸素 -

さんそ
文・浜田 久美子

創刊号の「森ってスゴイ！」は水でした。水がないと数日でわたしたちの命が危険、と書きました。でも、「もっとすぐに必要なものがある！」と思った人はいないでしょうか？ そう思った人、素晴らしい。水よりもっと先になくは困るのが、空気です。空気の中にある酸素が生きたためには欠かせません。

地球では、多くの生きものが酸素を吸って、二酸化炭素を吐き出すという呼吸のメカニズムで生きています。一方、二酸化炭素を吸って、酸素を出すという反対のメカニズムを持つ生きものがいます。それが植物、海藻、そして古代からいるシアノバクテリアという藻の仲間です。わたしたちにはとてもありがたい「反対メカニズム*1」は、葉や海藻の緑色のモトとなる葉緑体の働きです。葉緑体は太陽の光を受けると、空気中の二酸化炭素と根から吸い上げた水で自分に必要な栄養（でんぶん）を作り

出します。このとき酸素もできるのですが、いらないので吐き出します。

すべての植物が持つ働きですが、森は田畑や草原などくらべて、葉の量がダントツです。日本は面積の7割近くが森なので、この反対メカニズムの恵みがたくさん受けられますね。

*1 日の光がない夜は植物も酸素を取り込んで二酸化炭素を出すというわたしたちと同じメカニズムにスイッチします



森へ行こう！ 気軽に行ける森（上伊那）vol.2

老松場古墳公園（伊那市）

老松場古墳公園
伊那市東春近924 ■Pあり

東春近保育園の横をとって少しのぼると、老松場古墳公園につきます。その名の通り、大昔の古墳（王や家族のお墓）が7基もあります。お天気がいいと、中央アルプスと伊那市のまちがきれいにみえます。地域の方たちが整備してくれている森は気持ちよく、東春近小学校の6年生の手作り遊具も楽しめます。誰でも自由に行けるのでおすすめです。昨年8月からは、毎月1回「たき火の日」も開催されています。

編集委員 Y



くらすわの森（駒ヶ根市）

くらすわの森は、養命酒を作る工場の周りにあります。森を歩くなら、朝がおすすです。夜に動いた野生動物の気配が残り、野鳥の姿もよく見られます。しんと落ち着いた空気、なにか気がつくこともあるかもしれません。疲れたら、カフェやパン屋さんで、おいしいものを食べて休憩することができます。ライブラリーでは、木の香りにつつまれながら、ゆっくり読書ができます。大きな窓からは、森がよく見えるので、屋内からも森を楽しむことができます。景色を楽しむなら、夕方がおすすです。夕日に照らされた伊那谷と南アルプスがとてもきれいです。1人で、家族と、友だちと、くらすわの森でよい時間を過ごしてください～！

ペンネーム もりにこり

くらすわの森
駒ヶ根市赤穂16410
■中央自動車道「駒ヶ根スマートインター」から約5分
www.clasuwa.jp/clasuwanomori



【森のかくれんぼ】答え：6こ

発行：伊那市農林部 50年の森林推進課 長野県伊那市下新田 3050 番地

発行日：2025年2月 制作：モリマガ編集室 TEL 0265-96-0438（ワイルドツリー内）

小学生記者募集中！
モリマガ編集室までお問い合わせください

50年の森林 MAGAZINE

モリマガ 2号

森で なにする？

CONTENTS

森って？ / 東春近小学校 6年西組さんに聞く
森を楽しむ / 子ども記者レポート「森 JOY」
森で学ぶ / 東春近たき火の日
森の人にきく / 金井漢一郎さん（金井山素材代表）
コラム「森ってスゴイ」 / 酸素
森へ行こう / 老松場古墳公園 くらすわの森

森のかくれんぼ

フキノトウが何こ
かくれているか
さがしてみよう！
【答えはうら面です！】



伊那市の約8割が森です。そんなたくさんあるものの、森は身近ではないし森に親しんでいる人も多くはありません。

伊那市は2016年に「伊那市50年の森林ビジョン」を作りました。

50年のあいだにだれにとっても森が身近で大切になっている伊那市になろう！というものです。

学校でも仕事でも、毎日の暮らしに森とのつながりを感じる、生きるベースに森がある未来。どうしたらそうなるのか、みんなで考えるマガジンです。

森って？

ひがしはるちが
東春近小学校6年西組さんに聞きました

〇〇 森JOYは、初めて森JOYにきました。最初は家で留守番してようがなと思っていましたが、楽しかったので行ってよかったなと思いました。

〇〇 森JOYでは食品や体験、手作りの販売など、たくさんのコーナーがありました。

〇〇 森JOYは、初めて森JOYにきました。最初は家で留守番してようがなと思っていましたが、楽しかったので行ってよかったなと思いました。

〇〇 森JOYでは食品や体験、手作りの販売など、たくさんのコーナーがありました。

必要

世界中に必要
動物が住んだりくらす場所だから

必要なもの
公共の場

家がでるために必要
家具など

いろんな生き物がいる

大切

人や動物の大切な存在

誰にとっても動物にとっても大切な存在

自然

木や森は大切

〇〇

みんなの憩いの場

森へ行く

山へ行く

〇〇

子ども記者レポート／

森を楽しむ



文・ヒカル (11歳)

僕は、初めて森JOYにきました。最初は家で留守番してようがなと思っていましたが、楽しかったので行ってよかったなと思いました。

森JOYでは食品や体験、手作りの販売など、たくさんのコーナーがありました。

食品コーナーで、僕はあやきと甘酒を買いました。多くの店が長野で採れたものを使って体に優しい商品を作っていました。森の中で食べると、家で食べるよりもおいしく感じたので不思議でした。

小学生がお店をしていたので、僕もやってみたいなと思いました。たくさんの人が来ていましたが、みんなとても楽しそうに笑っていて森JOYってすごいなと思いました。

おたにやんの紙芝居も楽しかったです。楽器を使っていたので、情景にぴったりあった音がして、自分で絵本を読むよりも楽しかったです。

メインステージでは、小学生や高校生、プロの方の演奏を聞きました。森で聞くと、音楽が響いて空まで広がって行って、気持ちよかったです。

森に行くのが気持ちいいので、みんなも森に遊びに行きたいなと思いました。

次の森JOYが楽しみです。



森JOYとは...伊那市ますみヶ丘の「市民の森」で毎年11月に開催するイベント。森のコンサート、体験、飲食ブースなど

森で学ぶ



文・山本風音
(伊那市地域おこし協力隊・未来の教育コーディネーター)



教室から歩いて5分ちょっと。東春近地区の小学校と保育園の裏手に、老松場古墳公園(森へ行くコーナー見てね)があります。地域の子もたちの「遊びと学び」の森です。今年度は、地域の人たちと「東春近たき火の日」も始めました。



6年生西組が「みんなが楽しくのんびり過ごせる森の場所をつくろう」と計画。火の起こし方を教わって焚き火をしたり、地域の人たちと道具を作ったり、総合の授業でみんなの「やりたいこと」を実践しました。「たき火の日」では、6年生が火起こしや遊びを保育園の子たちにリードする場面もありました。

五感を使って本物に触れ、自分たちのやりたいことにトライしていける森。大切なのは、好奇心。自分の「やりたい」「気になる」「なんで？」を刺激してくれる森に、みんなに出会ってほしいです！



森の人にきく



「森を“宝の山”にしたい」

金井溪一郎さん(1984年生まれ) 金井山素材 代表

金井さんの会社は山で木を伐ることがメインの仕事です。でも、金井さんは金井林業とか金井林産などの名前にはしません。それは、木を伐ることが仕事の目的ではない、と表現したかったからです。

「もっと人が山に行っているいろいろな恵みを暮らしに使うことで、昔のように山に気を配ったり、手を入れたりするようになればいいなと思ったんです」と「山素材」と名づけた理由を話します。

たとえば、お盆に使う白樺の樹皮、クリスマスのもみの木、お正月の松。今はどれもお店で買うのがあたり前になっていますが、山からとてくることができます。四季を通して暮らしに山の恵みがもたらされる、そんな宝の山にできれば、みんなが山を大事にするのではないかと。金井さんが会社の名前にこめた願いです。そのための木の伐り方、山のつくり方を考えるのが大切な仕事になっています。



↑ 山の木を伐っているところ



↑ 金井さんが伐ったもみの木のツリー

YouTube



金井さんのお仕事の様子はこちらのQRコードから詳しく見られます。

